

線形代数講義 3 刷への訂正と追加の一覧表

p.218, 下から 10 行目 $\vec{BC} \perp \vec{AH} + \vec{HD} = \vec{AD}$ はわかり難いので, $\vec{BC} \perp (\vec{AH} + \vec{HD} = \vec{AD})$ とする. スペースに余裕があれば, $\vec{BC} \perp (\vec{AH} + \vec{HD})$ $\vec{BC} \perp \vec{AD}$ とすべきところである.

p.218, 下から 4 行目 $x + y = 0 \implies y + z = 0$

p.219, 上から 18 行目 ${}^t\left(\sqrt{2}\left(\frac{\cos\theta}{\sqrt{11}} + \frac{\sin\theta}{3}\right), \sqrt{2}\left(\frac{\cos\theta}{\sqrt{11}} - \frac{\sin\theta}{3}\right), -\frac{2\sqrt{2}}{3\sqrt{11}}\cos\theta\right)t$
 $\implies {}^t\left(\frac{3}{\sqrt{22}}\cos\theta + \frac{1}{\sqrt{2}}\sin\theta, \frac{3}{\sqrt{22}}\cos\theta - \frac{1}{\sqrt{2}}\sin\theta, -\frac{2}{\sqrt{22}}\cos\theta\right)t$
 (元のは単位ベクトルになっていませんでした.)

以下は, 第 2 版への訂正・追加を第 3 版に組み込んだもののやり損ないです. なので, 第 2 版とは無関係のものです. 訂正文は TeX ソースで送っているのので, なぜこのような間違いが生ずるのか理解に苦しむものが有ります. (^_^;

p.128, 下から 14 行目 V, W を $\implies V, W$ から

p.128, 下から 13 行目 を合わせて \implies と合わせて

p.136, 下から 11 行目 次のように全角ピリオドと括弧の空きを詰め, 逆に括弧の後のスペースを増やす (これは植字の常識のはず):
 とも言う.) $\lambda_1 \implies$ とも言う.) λ_1

p.141, 下から 4 行目 V_j , と $j =$ の間を少し (4 分程度) 空ける. そのままだと, $j = 1$ の等号の前後の方が広くなっていて読みにくい.

p.141, 下から 1 行目 $a_j = 0 \implies a_i = 0$

p.224, 上から 9 行目 $= 0$ を取る. すなわち, $3a - 13 = 8(a + b - 4)$ となる.

それから, 以下は (数学的内容には誤りはありませんが, 読みやすさの点で) 第 3 版への著者の訂正指示ミスです. 著者は自分では普通, 行列の記号に $\lambda I - A$, またこれに対応する線型写像は $\lambda - \phi$ と書いているので, 訂正を入れるときに前後を良く見ずに記号の不統一が生じました. なお, 定数 α 倍の写像を単に α で表すのは, 世の中でよく用いられているので, 適当な箇所にコメントを入れたいと思います.

p.141, 下から 2 行目 $\alpha_j - \Phi \implies \Phi - \alpha_j I$

(半角 1 字増で少し窮屈になりますが, コンマや等号の前後等のスペース調節で同じ行に収めてください.)

p.142, 上から 1 行目, 2 行目 (各 1 箇所) $\alpha_i - x \implies x - \alpha_i$

p.142, 上から 1 行目, 3 行目 (各 1 箇所) $\alpha_j - x \implies x - \alpha_j$

p.142, 上から 4 行目, 5 行目 (各 1 箇所) $\alpha_i - \Phi \implies \Phi - \alpha_i I$

p.142, 上から 4 行目, 5 行目 (各 1 箇所) $\alpha_j - \Phi \implies \Phi - \alpha_j I$